



堀口保利さん

生分解マルチ ずいぶん使いやすく なってきた

群馬・堀口保利

土中微生物に分解されるという生分解マルチを、露地ギクに使い始めたのは六年くらい前。エコファーマーを取得するにあたり、普及センターの職員から試供品を提供してもらったのがきっかけでした。その後自分でもメーカー六社から試供品を取り寄せて試しました。しかし使い始めの頃の生分解マルチはいいところはまったくありませんでした。

その頃の生分解マルチは、マルチチャードで横に引つ張りながら張ると伸びずに裂けました。横に引つ張らずになんとか張れたとしてもしわが残り、機械定植で結局裂けていました。また分解が早いために、生育初期から自然に破れて草が生えたり、土に埋まっている裾から分解してめくれ、風でバサバサはためいたりしていました。

おとし、伸びるよう改良された生分解マルチを導入。マルチャードで張っても定植機で植えても、普通のポリマルチと変わらなく使えます。しかし劣

化の早さは問題を残していました。

昨年新たに使ったのが分解の遅い生分解マルチです。これまでの生分解マルチは表面がざらざらしていましたが、新しいのはつるつるしています。ざらざらよりもつるつるのほうが微生物が喰いつきにくいため長もちするということです。今までは定植後一カ月くらいから破れが出ていましたが、新しいマルチの破れ開始は一カ月延長。初期の草と乾燥が抑えられ、軽度の破れで採花までいけます。

生分解マルチはポリマルチよりも水分を透過するので、マルチ下の土が乾燥しやすいようですが、土壌水分が十分ある時にマルチを張ってすぐ定植すれば問題はありません。夏の暑い時期でも、ポリマルチのように照り返しによつてキクが焼けることがないのは、マルチを通して土からの水蒸気が上がるからでしょうか。生育後半は破れたマルチの隙間から雨水が入りますので乾燥は防げます。ついでに追肥もでき

紫マルチ

不作年でもメークイン5t

千葉・花香きよ

旧栗源町（現香取市）のメークインはおいしく、昔から高値で取り引きされています。

農協の同じ支部の人は、配色マルチと呼ばれる、ウネの側面が黒で上面が透明になっているマルチを使う人が多いのですが、昨年は春が寒く不作年だったため、今年は地温が上がりやすい透明マルチを張っている家が多いようです。私が五年使っている「バイオレットマルチ」は紫色のマルチ。隣のサツマイモ農家がこのマルチで多収していたので、私はジャガイモに使ってみました。収量はぐんと上がり、不作年だった昨年でも地域平均の一・五倍

の5tの収量を上げました。理由は地温の上がり配色マルチよりもいいことだと思います（透明マルチほどではないでしょう）。

バイオレットマルチは、カッターナイフで切り込みを入れなくても、株間のしるしに小さなピンホールを開けておき、種イモを持った手で突っ込めば植えられて、ちょうどいい穴が開きます。そして芽がマルチの穴めがけてまっすぐ上がってくるのも特徴です。ジャガイモの芽は光に向かって伸びるからでしょうか、配色マルチや透明マルチだと上面にどこでも光があるので自由奔放に芽を出します。こうなると出芽後に芽を穴から出す手間がいります。私は浮いた手間を、出芽後の「元寄せ」（芽に土をかぶせる）や追肥とといった、さらに増収させるための作業に当てています。

また配色マルチや透明マルチだと生えてしまう草も、バイオレットマルチだと生えにくい点も気に入っています。



花香きよさんと旦那さんの富雄さん。バイオレットマルチのおかげで昨年メークインが5tとれた（赤松富仁撮影）

九五cm幅・四〇〇mで四二〇〇円＋税と、普通のマルチより割高ですが、手間、収量を考えると十分元が取れるマルチだと思います。（千葉県香取市）

*花香さんが使う「バイオレットマルチ」の問い合わせは、柴田屋加工紙糊（〇二五―三八二―二五一）まで



鈴木さんのキャベツ畑。ベッドにはポリマルチ、通路に雑草を生やす

ヨトウムシの類に最高に効果を発揮するらしい。
鈴木さんの観察によると、ヨトウムシはマルチよりも通路の雑草の中を好む。マルチの上のこのこ出ようものなら、天敵に見つけられてしまう。わざわざ危険を冒さなくても雑草の新芽で腹いっぱいになるか

ら、マルチの上の野菜なんて見向きもしないのだ。
もし通路に雑草がなかったらどうなるか？ ヨトウムシはマルチの穴の中に隠れて野菜をかじるようになるそう。ある時、鈴木さんのお母さんが通路の雑草がみつともないと、きれいに抜き取ってしまったことがあった。すると翌朝にはキャベツが穴だらけ！ たった一晩の出来事だった。
雑草が伸びて作物の風通しや日当たりを悪くするようなら、地際から5cmほど残して刈り倒す。するとヨトウムシは刈り倒した雑草の下にもぐり込む。そこからまたおいしい雑草の新芽が出てくる。なるほど、居心地最高の雑草の中に引きこもりたくなるヨトウムシの気持ち、わからないでもない。

編

AGRI 5<5< 防草シート
この品質でこの価格！
さあって実感、使って納得
アグリ開発 検索

厚さ0.4mm
長さ10m・幅1m
材質 ポリプロピレン

驚きの
1m幅×100m ¥10,000
ハウス・果樹園 防草に最適！
2m幅×100m ¥20,000

送料 (1m幅) 1巻 ¥1,000、2巻 ¥1,500、3巻 ¥1,500 (2m幅) 1巻 ¥1,500
1m幅は3巻セットでの購入がお買い得です！

サンプル、資料請求 無料
〒427-0101 静岡県島田市大柳 92-8
TEL 0547-30-0531 FAX 0547-30-0532
URL http://agri-power.net Eメール info@agri-power.net

アグリ開発

蒸散が激しく、植え穴から水分が抜けて土が乾燥しやすいという。
その点黒マルチは一気に地温上昇しないため、水分が抜けにくく乾燥しにくい。地温が上がりにくい点は、早めのマルチ張りに対応している。
また黒マルチは紫外線を通して、微生物が活動しやすい土壌環境を維持するためにも役立つ。

編

二・六町で有機無農薬野菜をつくる鈴木譲さんは、キャベツやハクサイなどの結球野菜には黒マルチだけでなく、通路に雑草を生やして、いわゆるリビングマルチにしている。

ポリマルチ + 通路に雑草 ヨトウムシにやられない 青森県横浜町・鈴木譲さん



鈴木譲さん
(赤松富仁撮影)

何も知らない人が見たら、「あーあ、鈴木さんあんなに草生やして」と思われるだけだが、これがじつは

るので、破れることもメリットに感じています。
生分解マルチの最大のメリットは、マルチの後片付けがいらぬことです。とくにキクは株が張ってマルチを剥がすだけでもたいへんな労力です。

そのまま耕耘してしまえば春までに分解。処分する費用も浮きます。またマルチの切れ端が風で飛ばされても「いざれ分解する」と思うと気がラクです。価格は普通のポリマルチの二〜三倍ですが、とにかくラクなのでもう元

には戻れません。

群馬県中之条町

*堀口さんが使う生分解マルチ「アグリエース」の問い合わせは、昭和電工機(〇三五四〇三二五六八〇)まで

黒マルチ 透明マルチより 乾燥に強い 埼玉県川越市・飯野芳彦さん

二・三haでエダマメやトウモロコシなど露地野菜をつくる飯野芳彦さん(一八〇ページ)は、「できれば全部黒マルチにしたい」というほどの黒マルチ派である。
透明マルチのほうが地温が上がりがやすいのだが、その分土からの